磐城之民聲

發行日、一、十一、廿一日（毎月三回）
編輯兼發行印刷人　北川秀雄
發行所　福島縣平町南町七十八番地
廣告料　五號十二字詰　一回　五十錢
一部十錢　一ヶ月二十錢　送料五厘

祝四倉港修築起工式

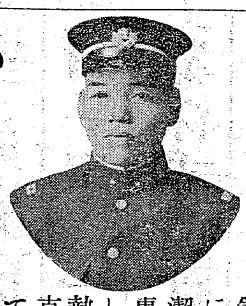
昭和七年初秋九月二十日吉辰を卜し茲に盛大なる四倉港修築起工の大盛典を擧行せらるに當り本社は四倉全町民と共に滿腔の祝意を表す。

由來四倉港は大平洋東海岸有數の豊漁良港として諸船舶の輻湊織るが如く繁榮を極めつゝありしが近時打續く財界不況の餘波を蒙り斯業漸く哀運に向ふの狀勢を遺憾とし全町擧げて是れが挽回策に焦慮寧日なく起死回生の一大事業實現を渇望なし日も猶足らず奔命したる不斷の强き努力の結晶は天の嘉する所なり即回天の一大事業たる漁港修工の機運に際會するに至る、嗚呼ひとり四倉町のみならず地方産業發達の爲何んたる會心の秋ぞ、顧れば大正十三年一月三十日總工費十一萬五千數百圓及大正十四年約二萬圓の工費を投じ漁港完成以來沿海各船舶碇泊するもの多かりしが遂年船体の改造大規模となり灣内狹隘を告げ別底收容し得ざる狀態に鑑み再度漁港修築を計畫運動に着手その實現を期せしも時たま〳〵未曾有の財界大變動に遭遇し中央政府の不得止る整理緊縮方針の下に補助額に一頓座を來たし加ふるに數次の政變によりて主務長官の異動更迭せる結果修築計畫の前途暗影に包まれ全町又不安焦燥裡に覆はれ寂として聲無く今にして當時を追懷する時想ふ時だに悲慘悲絶の極みなりき然るに愛町の權化とも稱すべき町長新妻盛氏始め各町會議員有志一同は斃れて後止むの悲愴なる決心の下に或は身心を傷け或は私財を傾ける等犧牲的運動を續ける一方町民又此處に築港期成同盟會を組織して血と涙の聲援を惜まず計畫實現に猛進せる結果その忍苦報ゆらるゝの時至り總工費四十四萬圓を以て昭和七年度より縣費工事を以て着手することに決定茲に萬里の碧空氣自ら澄むの本日修築起工式を擧行するに至る心なしか洋々たる其蒼海又當町の前途を祝福するが如く欣快之れに過ぎるものなし、本紙は衷心より四倉町民の献心的努力に敬意を表すると共に將來の發展を祈りて今日の祝辭と成す。

磐城之民聲新聞社

今日を晴れの日

四倉消防組頭　金成岩吉氏



昭和四年五月より本縣唯一の大漁場地、四倉に就任以來寢食を忘れ町治に盡しつゝ今日の繁榮四倉を出現するに至たる町長新妻盛氏は一代の名僧として衆人渇仰の佑天上人（三代の胤）として生まる栴檀は嫩より芳ばしと幼にして聰長じる新に及んで益々その賢才を揚發し、今日に及んだ人格者である盛氏が年々哀運に傾きつゝある漁港の挽回策に專心身命を賭して奔命の甲斐あり回天の大事業として四倉修築の擧に出るや堅忍不拔あらゆる障害を排し當初の目的貫徹に努めたる結果茲に酬ひられて今日華々しき起工式擧行の機運に至る不巧の大事業たると共にその功績は燦として永く四倉町史上を飾るであらう。

四倉二百有餘の消防組員を一糸亂るゝ處なく統率同町の爲め常に献身的努力を惜まざる人に簾潔の士金成岩吉氏がある。氏は事業家として亦多大の信用を有し今日に及むでゐるが半面頗る熱情に富む性情の逆として平素克く町民大衆唯一なる味方として何事によらず善處してゐるので町民一般から敬仰の的となつてゐる。

水難救濟會長町會議員　吉田壽三郎氏

活動家と言ふ文字こそ氏に對して始めて使得る滿身これ覇氣滿々飽くまで町の爲めに止み難き熱血の迸る所尤も統率し難き水の救濟會會長としてこれを卒えて名實共に完備せる今日の盛大を成すに至つた同會創設以來救助せる船隻に七乘組員百九十八名船噸數二百廿噸九三馬力數三百十五馬力に及ぶ氏は語る自分の下に遭難船救助に當り犧牲的精神を以て使命を全うする考へであると以つて氏の人格豊富の一端が窺はる等は飽く迄海の赤十字海の消防組の自覺の下に遭

日本屈指の磐城セメント四倉工業所

磐城セメント株式會社は淺野、小野田と併稱さる日本有數の大工業會社にして四倉工業所はその本工所たると共に又實に搖藍工場たり明治四十年創設にして現在壹千七十萬の巨資本の首腦工場として青森縣八戸湊工場品と相呼應し東北販賣路獨占は勿論遠く中央以西下迄進出製品の良質を以て盛價を高めつゝあり同工業所一ヶ年の製産高は百五十萬樽以上にして此價格實に千五百餘萬圓なと所長小室萬五郎氏は嘗ては技師長としてその蘊蓄をセメントの品質改善向上に傾注し社業發展に資する所大なるものあり、昭和四年七月前所長岡田萬次氏の後を承けて四倉工業所長となり人格識見兼備の名所長として所員の人望を集め一方又地方稀に見る温厚なる紳士として地方民の信頼を承けつゝあり。

萬年瓦工業株式會社

四倉驛前通りにあり、社長江口清氏躬行卒先的下に從業員一同の絶えざる努力を期待つて近年品質益々改良され遂年その需要激增し社運發展斯界獨歩の今日の隆盛を占む因に原料は數丁を出でさる磐城セメント四倉工業所より直接供給さる便あり從つて價格低廉葺上げの簡便優美堅牢は他品の絶對追從を許さゝるものあり。

日本百景の一　新舞子

白砂青松、技姿百態、須磨明石に劣らざる景勝地、日本百景の選に入りしも故きにあらず今や仁井田浦と併せて新舞子又は磐城舞子と稱され國立公園候補地に數へらる、常磐線唯一の暑地として喧傳され四時遊覽客絶ゆることなし松中旗亭あり名もゆかし新舞一流亭初音と呼ぶ主人渡邊幸四郎氏又商賣離れし明朗而も遊子の著名なると共に大小宴會に忙殺され將來の發展こそ斯業界活目の的たり。

四倉驛より約十五丁行程　草野驛より約十五丁四倉より一里半、海傳へに約三十丁、平四倉より自動車の便あり。

御料理　初音

波立藥師

双葉郡久之濱町字田之網に在り、四倉驛より十五町に尊として至る、瑠璃光如來を本とす世に波立藥師と稱し西行法師の歌に陸奥のこの濱に一夜寢てあすや拜みの波立の寺とあり寺には師の建立するところとなる西行法師此歌の自書に見ゆ亦好見の濱とは今の久之濱海岸を指したるものなりとやむふ常に遠近よりの參詣者絶へたることなし側に奇勝ワニケ淵あり。

祝　四倉港修築起工式

衆議員議員　比佐昌平
縣會議員　萩原義雄
仝　石川德壽
前縣會議員　鷺清昇
仝　若松美三

四倉町會議員（不順）

面川亀之助
植田萬次郎
菅波康太郎
佐藤熊蔵
小港平次郎
横田民彌
金成岩吉
豊田盛次
門馬倉次郎
吉田彌十郎
須藤久太郎
長谷川酉次郎
長谷川寅次郎
大和田安太郎
中野捨與
小湊宗吉
武藤豊
吉田壽三郎

四倉町々長　新妻盛

四倉町助役　菅波千之助

四倉町漁業組合長　長谷川長八

（溫泉紹介）

三）玉山溫泉

東北の名湯

玉山鑛泉は靈効を以つて東北有數の名湯として著名なると共に又カチカ啼く景勝の幽境地として又餘りにも有名である鑛泉は寛文元年（約二百五十年前）發見され後延享元年（約百九十五年前）磐城平の城主内藤備後守が浴湯を開きてより世に宣傳され今日の隆盛を見るに至れるが如何に○○胃弱小兒の蟲寸白、脚氣神經痛等に卓効あるが一度木浴せし者は靈効著しきに神湯として必ず賞讃の辭惜まざるに據つて見ても一端が窺はれる近時村民の自覺により四倉より直通自動車道路開設の準備完了せるよしなれは開通後の發展こそ村民の待望する所にして今より各方面注視の的たり。而も附近には松茸の名産地白岩中島等あり、初秋の候茸狩人の往來に依つて一入の賑ひを極む。

行程、常磐線四倉驛下車西北二里　人力車自動車の便あり。（自動車鑛泉入口道迄片道賃金二十錢）

玉山鑛泉旅館組合
石藤屋
王屋
屋

宿泊料　湯錢（約五十錢）　夜具共

賄——隨意

祝　四倉港修築起工式

四倉町小學校長　菊地正一
四倉町郵便局長　菅波富太郎
四倉町登記所長　石川忠雄
四倉共同運送店　長瀬慶重
酒井專治
磐城セメント四倉工業所長　小室萬五郎
堀江工業株式會社　江口忠一
四倉町　萬年瓦工業株式會社
四倉鐵工所　西山惠一
木田剛襲　木田織
大野村　江

◆牛乳◆　若松平搾乳所
若松增三
平町柳町　電話五五二番

模範牧場の名高き
若松牛乳搾取場

お互に乳養を取らんと欲する者總てが先つ要求する所のものは清淨と滋養の二條件を具備せるものであろう本紙が悅んで紹介する平町柳町若松牛乳搾取所こそはこの理想を完備せる模範工場として推稱するに躊躇しない、一度訪れたる者牧舍の理想的通風採光、殺菌場、搾乳場と大多數町民の機具の完備して術生に留意せし苦心の跡とを見て感嘆久しくせざるを得ぬ。

牧主若松增平氏は語る『何も經驗と努力です、品質の向上を計るには是以外に別はありません、努力と衛生とこれが私の信條です』と的言葉少き中に藏する烈々たる氏の營業に對する熟誠これある哉平町民の安んじて乳養を取り得ると同時に若松牛乳搾取場と大多數町民に親まれ今日の隆盛を成せる所以と暫し感に打たれ辞去す。

平驛長　麻植晴吉

御挨拶
清園　鈴木清四郎
右本社營業部員として入社致しました此後宣敷御願ひ致します。

郡是製糸株式會社平購繭所主任　加藤市郎
小田炭礦萩原鑛業所長　萩原中八
五十嵐炭礦不動澤鑛業所長　高階一郎
杉山炭礦鑛業所長　杉山今朝吉
磐城炭礦株式會社鑛業所事務部長兼庶務課長　濱崎善三郎
四倉海嶽寺住職　花澤賢有
大浦村長及長隆寺住職　吉田純祐
四倉座海盛座　四倉町　共同興行部
主任　新妻惠齋　藤常松

平町健康保險醫療所長　國井正

耳鼻咽喉科專門
增田醫院
平町南町電話四八二番
增田四倉分院
四倉町　電話五五番

醫學博工
難波睦
平町大町
電話五〇二番

召ぜ——電話三八三番
平町の久保田のパン
製造部　平警察署通リ
販賣部　三丁目横町

四倉町
坂本大敷網漁業事務所
坂本嘉兵衛

◇四倉旅館組合◇

柏屋　電話十九番
鈴木屋　電話百四番
旭館　電話七一番
太平館　電話一一八番
海氣館　電話五番

醫療工業藥品化粧品、雜貨
荒川藥舗
荒川善太郎
四倉町　電話一二〇

四倉町
深谷藥舗
電話二八番

四倉町
佐藤藥舗
佐藤寫眞館
電話一三〇

四倉町仲町
紙屋吳服店
電話　番

四倉町仲町
和洋御料理　泉屋
電話七三番

平町南町
綿布　堺屋

外科一般花柳病科專門
木村外科醫院
平町六丁目橋際
電話三〇九番

平町四丁目
佐藤齒科醫院
電話五〇八番

平町白銀町
河田鐵工所

額賀醫院
内科　小兒科　額賀襄
外科耳鼻科咽喉科　同　毅
電話四番

平——四倉間自働車合同組合

四倉製氷販賣部
四倉町新町　伊藤義貫
同　仲町　比佐野清治
同　福田町　熊倉新一

四倉町
植田材木店
植田自動車部
電話一二三番

當選御禮

今回の貴族院多額納稅者議員選擧に際し各位の多大なる御後援に依り當選の榮を擔へ候段取敢へず紙上を以て謹で御禮申上候
昭和七年九月十一日
石城郡錦村　金成通

和洋銅鐵金物問屋　釜屋商店　電話九九番

家具漆器
丸ほん
平町三丁目　電話三五九番

四倉藝妓屋組合